

kigokoro

EIDAI Corporate PR Magazine Winter 2021 / vol.6



新製品紹介



インタビュー



ショールーム紹介

広島営業所・広島ショールーム



探訪
日本の原風景

第6回
広島県 宮島
弥山/千疊閣



kigokoro lab



EIDAI Headline News

kigokoro

Winter 2021 / vol.6

第6号 令和3年1月1日発行
編集・発行：永大産業株式会社 ヴォケインテック部 広報課
〒559-8658 大阪市住之江区平林南2-10-60 TEL:06-6684-3058 FAX:06-6684-3051



Skism

スキスム

好きを暮らしに。
自分スタイルの空間づくり。

しあわせを感じるの「好きなもの」との出会いから。
好きを選んで、自由に組み合わせて、
気がつけば、家族の笑顔がはじける心地いい暮らしがはじまります。

木を活かし、よりよい暮らしを

EIDAI

永大産業株式会社
www.eidai.com

お客様相談センター
☎ 0120-685-110
[受付時間] 平日・土曜日9:00~18:00(休業日:日曜日、祝日、夏期休暇、年末年始)

EIDAI ショールームでお確かめください。

EIDAI SR

検索



新製品紹介

SYSTEM KITCHEN
Lapotte
ラポッテ

お手ごろ価格で若い世代のニーズに対応
システムキッチン
ラポッテ

小さな子どもを抱えて共働き。多くの予算はかけられないけれど、基本性能に優れたキッチンがほしい。インテリアにもこだわりたい！そんなファミリーに向けた「ラポッテ」の特長をご紹介します。



ラポッテの特長

ファインモーション機構を搭載



引き出しの金属レールとフルオープンレールは、どちらもゆっくり閉まり、生活音を抑えて安全性も向上。

サイズと材質を
リニューアルした壁面収納



I型対面プラン（奥行650mm）では、造作壁に組み込む壁面収納をリニューアルして採用。

「Skism(スキスム)S」による
コーディネート



扉はもちろん、ダイニング収納（扉なし仕様）やエンドパネルなども同シリーズの柄で対応できます。

標準装備が充実！対面プランや扉柄もニーズにフィット
30歳前後のファミリー層をターゲットに、6月1日に発売した「ラポッテ」。価格を抑えながらも、使いやすさやお手入れのしやすさを徹底的に追求したシステムキッチンです。

その特長はまず、標準装備が充実していること。シンクは、キズが目立ちにくいエンボス仕上げのステンレスシンク。キャビネットは汚れを拭き取りやすく、すりキズに強い化粧仕様「ファインクイックさらり」を採用し、害虫の侵入を防ぐ「ムシブロックパッキン」も標準装備としました。また、対面プランが充実していることもポイント。スタンダードなI型対面プランはもちろん、3タイプのペニンシュラ型の対面プランをご用意。空間に合う奥行きや、求める開放感、使い勝手などによってお選びいただけます。

扉柄は、当社のブランド「Skism(スキスム)」のSシリーズと同じ6柄をラインナップ。LDK全体のトータルコーディネートにも簡単に実現でき、インテリアへのこだわりにお応えします。ちなみに「ラポッテ」というネーミングは、キッチンから新しい暮らしの扉を開きたいとの思いを込め、フランス語「Porte(ラポルテ=扉)をアレンジしたものです。



詳細はこちら

開発者の声

よりよい住まいづくりを目指すため、お客様のニーズや求める価値を追求。

洗練されたデザインを目指しつつ、よりお求めやすく「ラポッテ」だけの価値をお届けするために。開発に奮闘した3人の声をご紹介します。



加熱機器下の深い引き出しは、大容量を確保しつつ、底板の位置を少し上げることで取り出しやすさを向上。

壁面収納はよく使う計量カップなども収納できるよう、ゆとりあるスペースを確保。市販のマグネット式のフックなどを付け、自分流に使いやすくアレンジすることもできます。

奥田 そこは本当に知恵を絞ったところなんです。従来の機種で好評だったシンクまわりの壁面収納をそのまま流用してもよかったです。ひと手間加えることにしました。たとえば手に入りやすいマグネットフックなどが使えるよう、ステンレスの種類を変更する工夫を行いました。宮尾 壁面収納はもともと、隠れたベストセラーでした。それを、共働きで忙しい今の家庭のフチストレスを解消するものとして再評価し、付加価値をつけて仕様変更しよう。商品課と開発室で何度も仕様を検討しましたね。服部 あと、システムキッチンは部材の点数が非常に多いので、旧3機種ではそれぞれ異なる部材の管理も煩雑になっていました。私は以前、調達部門に在籍していた経験があるので、そこ

充実させることは難しかったのでは？

なるほど。しかし普及価格帯で基本性能を「ラポッテ」の開発に至った背景や、コンセプトについてあらためてお教えください。服部 かねてから、価格を抑えつつも機能性が高く、プランの対応力もある汎用性の高いシステムキッチンの必要性を感じていました。そこで、分譲戸建て向けとして既にあつた3機種を統合し、新商品として開発しようという話になりました。宮尾 既存の機種は発売から数年経過していたこともあり、その間に生活者の価値観も変わっているのですね。まずユーザーニーズのヒアリングから始めました。その結果、凝ったデザインよりはシンプルのほうが受け入れられるだろうと。ちょうど当社の最近の機種「ラフィーナネオ」がシンプルで質感を追求したキッチンなので、これと同様のテイストで価格を抑え、基本性能を充実させることを目指しました。

「ラポッテ」の開発に至った背景や、コンセプトについてあらためてお教えください。

服部 かねてから、価格を抑えつつも機能性が高く、プランの対応力もある汎用性の高いシステムキッチンの必要性を感じていました。そこで、分譲戸建て向けとして既にあつた3機種を統合し、新商品として開発しようという話になりました。

宮尾 既存の機種は発売から数年経過していたこともあり、その間に生活者の価値観も変わっているのですね。まずユーザーニーズのヒアリングから始めました。その結果、凝ったデザインよりはシンプルのほうが受け入れられるだろうと。ちょうど当社の最近の機種「ラフィーナネオ」がシンプルで質感を追求したキッチンなので、これと同様のテイストで価格を抑え、基本性能を充実させることを目指しました。

をお客様のニーズに合うように整理しながら、「ラフィーナネオ」と部材を共通化したり、手間を削減してよりコストを抑えられる設計を行ったり、様々な試行錯誤を繰り返しました。特に女性はキッチンを使われることが多いと思いますが、ご自身の実感も活かされたのでは。

奥田 そうですね。私はよく料理をするのですが、キッチンが整理されず、雑然としていると落ち着きません。すっきり片付けやすくするためには、どこに何をどう置いたらいいか、いつも料理をしている女性陣の意見もたくさん聞いて「ラポッテ」に反映しています。宮尾 濡れたふきんとか、調味料入れとか、キッチンに絶対あるけれど見せたくないものってあるんですよね。その定位置を考えたら、女性目線で工夫したところは、毎日の暮らしの中できっと皆さんにも使いやすいさを実感していただけていると思います。

服部 時間をかけて工夫を重ねただけ、きめ細かな配慮の行き届いたキッチンになっています。ぜひ期待していただけだと思います。



【左】住設事業部商品部 商品課 宮尾 五月
【中】住設事業部商品部 開発室 服部 良紀
【右】 同上 奥田 侑希



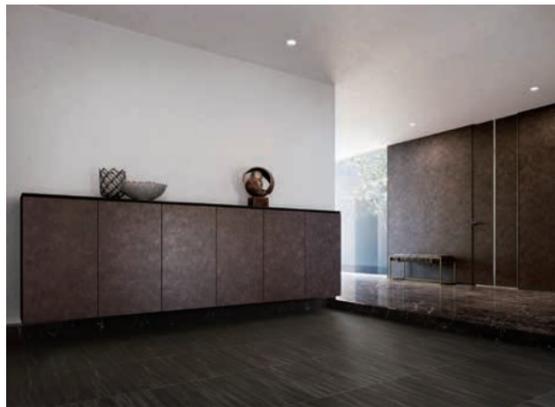
室内ドア、シューズボックス、化粧壁材、造作材の最上位シリーズ

「グランマジエスト」を新発売

ハイエンド製品の品揃えを強化

当社は11月16日、ハイエンド製品の品揃えを強化するため、室内ドア、シューズボックス、化粧壁材、造作材の最上位シリーズ「グランマジエスト」を発売いたしました。

この「グランマジエスト」の開発過程では、「ハイエンド製品はEIDAI」とのご評価をいただけるような製品づくりを目指し、クオリティの高い素材や金物、そしてデザインにこだわりました。石材や金属の質感までリアルに再現した扉の表面材や、重厚感を演出する室内ドアのロングバーハンドル、一枚板のようなシューズボックスの連続木目扉などを取り揃えております。注文住宅等でハイエンド製品をお求めのお施主様がいらっしゃいましたら、是非、最寄りの営業所にお尋ねください。



シューズボックス(ローボードタイプ)、室内ドア、化粧壁材を「グレインエレメント」で統一した玄関の事例



シューズボックス(トールタイプ)を「GMカラーエレメント」で施工した玄関の事例

新製品の主な特長

■ 室内ドア

- 天然木の風合いを基調とした「グレインエレメント」、石材や金属のような異素材の質感、触感を基調とした「ソリッドエレメント」の2種類
- 「グレインエレメント」は、継ぎ目のない木口仕上げが特長
- 「ソリッドエレメント」では、木口材に光沢のある金属製のエッジを採用
- 重厚感のある厚さ40ミリの開き扉

■ シューズボックス

- 「グレインエレメント」、「ソリッドエレメント」、およびトレンド色をモチーフとした塗装扉「GMカラーエレメント」の3種類
- 「グレインエレメント」のデザインは、一枚板のような連続した木目柄
- 「ローボードタイプ」と収納量を多くとった「トールタイプ」の2プラン
- 「ローボードタイプ」のカウンターの厚みを薄くし、カウンターが浮いたように見えるフロート調デザインを採用
- コーナーには機能性に富む両開きの収納「デュアル収納」を設置

■ 化粧壁材、造作材(スリム幅木)

- 室内ドア(ソリッドエレメント)と同じ素材の壁面材や、高級感と省施工性を両立させたスリム幅木をご用意



詳細はこちら



SDGsの取り組み 南洋材から国産材への移行

循環型社会の構築に向けて(南洋材から国産材への移行)

当社では「SDGsの取り組み」の一環として、フローリングに用いる基材を、南洋材合板から国産針葉樹合板に置き換える作業を進めています。今回の「kigokoro lab」では、4号で紹介した「省施工型製品の開発」に続き、循環型社会の構築に向けた取り組みの内容についてご紹介します。

国策として木材自給率を50%に

わが国は国土の約7割を森林が占めるにもかかわらず、林業に従事する担い手は慢性的に不足している状態です。この結果、手入れの行き届かない放置林が増え続け、荒廃が目立つようになりました。荒廃が進んだところでは、水源涵養といった公益的機能を果たすことができなくなるどころか、降雨により大規模な土砂崩れが発生する危険をはらむようになりました。

そこでわが国は森林・林業プランを策定し、国産材の利用促進に向け、2025年(※)に木材自給率を50%に引き上げるとの目標を掲げました。

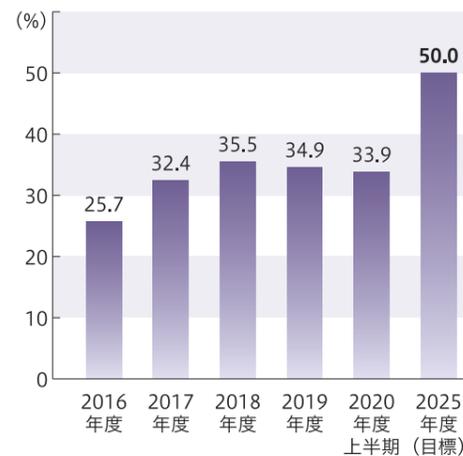
これまで当社は、主力製品である複合フローリングの基材に、もっぱら南洋材合板を多用してきました。その理由は安価であること、また複合フローリングの性能を維持する効果が見込めたことにあります。しかし、年々大雨による土砂災害が甚大化するなか、当社としても積極的に社会的責任を果たしていこうと、国策にそって、国産針葉樹合板の採用を始めました。

※当初策定された森林・林業プランの目標年は2020年、のちに5年先送りされ2025年に変更。

2020年度上期は33.9%

当社では2025年度までに、フローリングに用いる基材の50%までを、現在の南洋材合板から国

当社の複合フローリング国産材基材比率の推移



産針葉樹合板に置き換える作業を進めています。この合板の原材料となる樹種は主にスギ、ヒノキで、これらはわが国の人工林の約70%を占めます。当社ではSDGsの取り組みの一環として、これらの国産材を積極的に活用し、我が国の国土保全に寄与するとともに、熱帯における森林を保護し、地球温暖化防止に努めていきたいと考えています。

当社は2016年度から複合フローリング(左記グラフ)の国産材比率の統計を取り始め、2019年から2020年にかけては、製品の入れ替え等もあり若干減少し、2019年度は34.9%、直近の2020年度上半期までの実績は33.9%でした。



スキスムTフロア



詳細はこちら



銘樹エルテージ

国産針葉樹合板を用いた当社製品では、スキスムブランドの「スキスムTフロア」、「スキスムSフロア(シート・2Pタイプを除く)」があります。このほか、ご好評いただいている「銘樹」のなかでは「銘樹ヌーディーセレクション」「銘樹Spec」、そして新製品の「銘樹エルテージ」などがその代表例です。

インタビュアー

インクルーシブスポーツを通じ、共生できる社会づくりを



Wheelchair Football Japan 代表理事 糸賀 亨弥氏

多様性を尊重し、共に生きる社会の実現が求められている中、障がいの有無に関わらず参加できるスポーツ「インクルーシブスポーツ」に注目が集まっています。Wheelchair Football Japan（日本車いすアメリカンフットボール協会、糸賀亨弥代表理事）では、このような「インクルーシブスポーツ」の普及に力を入れており、誰もが安全・安心かつ快適に使える製品づくりを目指す「永大産業」では、2018年から同協会の活動を支援しています。これまでの経緯や今後の展開について糸賀代表にうかがいました。

profile

糸賀 亨弥（いとが きょうや）

- 1972年 大阪市出身
- Wheelchair Football Japan代表理事
- 全国でアメリカンフットボールの魅力を紹介しながら、社会活動に従事
- <https://www.facebook.com/wheelchair.football.japan/>

事故で頸椎を損傷してしまったのです。しばらくして、車いすを必要とする身体となった彼が、またアメフト部に戻りたいと、相談にきました。米国ではチームに車いすのコーチがいる例もありますが、車いすのままでも参加できるスポーツが必要なのではないかと考えたのはまさにその時でした。

2008年、当時競技として確立していた車いすバスケットボールを参考に、車いすでアメリカンフットボールができないかと考えるようになり、その後、調べていくと、本場米国では既に車いすアメフト（正式名称「Wheelchair Football」）が競技として成立しているとの話を聞き、2011年渡米しました。帰国後、講演会や体験イベント等を通じて車いすアメフトの魅力を広めながら、非営利団体の設立に向けて準備を進めました。そして2014年「Wheelchair Football Japan」を組織し、その代表理事に就任しました。

協会立ち上げ後の活動について教えてください。

協会設立後は、大学や団体との共同研究やイベントの開催を行ってきましたが、2018年、このスポーツを



第1回永大カップ



第2回永大カップ

3月に「第2回永大カップ」をそれぞれ大阪府堺市で実施しました。

さらに、同社のフローリング生産工場（山口・平生事業所）が山口県にあることから、地元の平生町や教育委員会に働きかけ、2019年10月に同県では初となるイベント「みんなで車いすアメフトをしよう in 平生」を同社とともに開催しました。

このイベントでは、車いすアメフトだけでなく、競技用車いすを用いた鬼ごっこや、特別な器具を使った車いすの介助体験を行い、多くの方々にこの車いすアメフトの存在を知っていただくことができました。

車いすアメフトと並行しながら、別の社会活動を行っているようですが。

一つはフラッグフットボールの活動です。このスポーツの起源はアメフトで、腰に下げたフラッグを取ってタックルとみなし、ボールを相手の陣地奥まで運んで勝敗を決めます。

国内では2008年、正式に日本フラッグフットボール協会が発足したことで、さらに活動の輪が広がっています。



車いす介助体験（山口県・平生町）



ホスピタルフットボール（甲子園球場）

ます。天理大学でもその時期に、学生の地域貢献として地元の子供たちに、フラッグフットボールの指導を始めました。なお、聞くところによると、同協会では2028年に予定されているオリンピックで、フラッグフットボールが種目として採用されるよう運動を展開しているそうです。

もう一つがホスピタルフットボールの活動です。難病で長期入院を余儀なくされている子供たちが、外界と閉ざされないようにすることが、このスポーツの大きな目的です。

ホスピタルフットボールは、療養中の子供たちが病院の中で作戦を組み立て、それを病院の外にいる選手に実践してもらう仕組みです。ルールは先に述べたフラッグフットボールのものを採用しています。

米国のアイオワ州では、病院の真横にアメフトの競技場があって、フィールド全体が見渡せるようになっており、ホスピタルフットボールが行われています。2019年12月、学生日本一を決める「甲子園ボウル」では、再び永大産業のご支援をいただき、決勝戦の前のイベントとして、奈良県と京都府の小学生のチームが、入院中の子供たちが立案した作戦を用いて、エキシビジョンマッチを行いました。

ただ、わが国だと米国のようなスタイルは現実的でないで、違うアプローチが必要と考えています。

コロナ禍で活動にも大きな影響が出ていると思います。

確かに大きな影響を受けていますが、こうした中でもアメフトの楽しさを知ってもらいたいと思っています。先頃、サイコロを使って攻守の戦術を決め、卓上でアメフトを楽しめる「ファーストダウン」というカード

ゲームを開発しました。近くNPO法人「ホスピタルフットボール協会（仮称）」を設立する予定で、この教会の活動を通じてゲームの普及に乗り出すとともに、ホスピタルフットボールの認知度を高める活動を展開していきたいと思っています。

最後に糸賀さんは、あの糸賀一雄氏とご関係があるとうかがいました。

糸賀一雄は私の大伯父（父方の祖父の兄）にあたります。私の生まれる4年前に他界したので、実際に会ったことはありません。あの時代に社会福祉の礎を築いたのは、確固たる信念をもち、努力し続けたからだと思っています。おそらく相当な苦勞も味わったでしょう。大伯父の様にはいかないでしょうが、私なりの方法で、今後も粘り強く活動を続けていきたいと考えています。

Memo

わが国の社会福祉に多大な貢献



糸賀 一雄氏 (1914-1968)

糸賀一雄氏は戦後の混乱期に知的障害児らのための施設「近江学園」を創設したのち、国の制度づくりや指導者の育成などに力を尽くし、わが国の社会福祉に多大な業績を残しました。同氏の「この子らを世の光に」という言葉は特に有名です。

画像提供：公益財団法人 糸賀一雄記念財団

ちよつと
一息の

column 味覚に働きかける木

木には食べ物をおいしくしてくれる 不思議な力があります。

食品に、より香ばしい風味づけを。
洋酒は色合い深く、まろやかな味わいに。

私たちがおいしいと感じる時、おいしさを作ろうとする時、そこではしばしば「木」のもつ特性が役立っています。

たとえば木の「香り」を活かす一例として、燻製が挙げられるでしょう。サクラなどのチップを燃やし、肉やチーズなどの食品を燻すことで、独特の香ばしい風味が加わります。

また、木の香りに加えて、木の機能性も活かしているのが酒づくりです。日本酒の醸造にはスギの樽がよく使われますが、これはスギの清々しい香りを日本酒に移すと同時に、水分を吸うスギの性質を利用して中の液体が漏れないようにするためです。一方、洋酒の醸造にはオーク(ナラ)の樽が多く使われ、これも水分の透過性が低いというオークの性質を利用したものです。この場合、樽からオーク材の成分が溶け出しやすい、木目がまっすぐに通った柁目の製材を使います。それによって洋酒の深い香りとし、色合い、まろやかな風味が生まれるのです。

唇や舌が触れたときの心地よさは
日本人の繊細な味覚にマッチ。

家庭で使われる食器や調理器具などにも、木はよく使われています。毎日のように飲むお味噌汁を注ぐのは、昔から木のお椀。加工性がよく保温性に優れているうえ、食事中に何度も手に持つとき

の手なじみの良さや、口に運ぶときの口当たりの良さがあってのこと。木の箸にも同じことが言えます。古くは『古事記』や『日本書紀』の中にも箸に関する記述があり、今もなお木の箸は使われ続けています。

これらは木材自体の香りや、唇をつける感覚、舌が触れる感覚が、日本人の繊細な味覚に合うものとして長く愛されているのでしょう。

さらに木という素材は、料理を盛りつけるとより美味しく見えるという効果もあります。現代のSNSでは「曲げわっぱのお弁当箱」を使ったお弁当がよく披露されていますが、これはヒノキやスギ、ヒバなどの薄い板を曲げて作る容器のこと。プラスチックのお弁当箱に入れるよりも「映える」ということで再評価されています。ぜひ、毎日の食生活の中でも木のある暮らしを楽しんでみてください。



探訪

日本の原風景

第六回 広島県 宮島
弥山／千畳閣

世界遺産でもある安芸の宮島は古き時代の佇まいを残したまま受け継がれてきた。

宮島には海にそびえる朱色の大鳥居や厳島神社、江戸時代から受け継がれている宿場だけでなく、原生林が広く残る弥山や豊臣秀吉が建立した千畳閣などもある。



日本三景の一つ、宮島は大鳥居や厳島神社が有名だが、「最高峰の「弥山」は古くは弘法大師が修行を行った場所でもある。ここには登山道とロープウェイで頂上まで登ることができ、山の天然記念物にもなっている。頂上からの展望は瀬戸内海、四国連山を一望でき、ミシュラン・グリーンガイド・ジャパンにて三つ星を獲得したほどの絶景が広がっている。また、1200年前に弘法大師が灯した「消えずの火」や様々な巨石が織りなす自然のアートは、パワースポットとしても慕われている。この島の持つパワーにあやからうと訪れたのは弘法大師や平清盛だけでなく、豊臣秀吉もそのひとりである。戦い

で命を落とした人々を供養するため千人の僧が同時にお経を読むことができる「千畳閣」を建てたが完成する前に秀吉が亡くなったので未完のままとなっている。大きな柱で支えられた空間は圧倒的な迫力と癒しの時間を与えてくれる。



ショールーム紹介 広島営業所・広島ショールーム

西日本最大の展示スペースを活用

広島ショールームは一般住宅向けの製品や新製品はもちろんのこと、保育園、幼稚園などの園舎や高齢者施設向けに開発した「セーフケアプラス」の製品群を充実させている点が大きな特長です。現在は新型コロナウイルス感染症の影響で、自粛させていただいておりますが、西日本最大規模の展示スペースを活かし、お客様の研修会や各種イベントにも大いに活用いただける環境が整っております。これからも地域に根ざした質の高いサービスで、お客様のよりよい住まいづくりに貢献してまいります。



住所 〒733-0832 広島市西区草津港2-6-66
休館日 火曜日、水曜日、祝日、夏期、年末年始、5月連休
営業時間 AM10:00～PM5:00

◇広島ショールームスタッフ◇
写真左から藤野(所長兼マネージャー)、山口、堀川、平原です。



社会そして地域に役立つ企業が発展する時代

地球環境の変化や新型コロナウイルスの影響もあり、世の中は、経済成長が優先される価値観から、他者との共存や持続可能性をより重視する価値観へと大きく変化してきています。それに伴い、工務店・ビルダーにとっては地域における存在価値を高める新たなチャンスが生まれています。そのチャンスの鍵になっているのは「地域社会への貢献」です。建築需要減の時代でも、家づくりやその派生サービスに限らず、地域活性化への役立ちを通じ、地域に寄り添う不可欠な存在として活躍の場があります。

地域貢献工務店の取り組み紹介

地域に寄り添う工務店としての素晴らしい実例として、香川県の(株)山倉建設様をご紹介します。

山倉康平社長は、家づくりにおいては家族の夢請負師として、また、ふるさとが帰りたくなる故郷であることを望み、**地域活性化に関わる様々な活動を率先して実行**してこられました。

具体的には、増え続ける高齢者を援助するための人材登録制度として、地元自治体を中心にお助けネットワーククラブを設立。特に後期高齢者のお困りごとを解決する事業として、本クラブには地域の方々から100人近く登録されるまでに成長しています。そして、地域コミュニティ活動の拠点として、「どろんこ亭」を運営されています。ここでは音楽会や、食事会、セミナースペースの貸し出しなどを行い、**皆が集いコミュニケーション**できる場として**地域の活性化に貢献**しています。

また、長年にわたり継続している地元河川の清掃はふるさとづくりの一環として、**古民家再生&民泊事業では、その趣旨に共感し、地域の魅力性を高める活動へと広がり**を見せています。

災害支援活動も重視し、東北や熊本をはじめとする災害支援活動にも積極的に取り組まれています。地元の中学生を支援活動に連れていくことで、地域の子供たちに、「役立ちたい」という人間が本来持っている善の気持ちを思い起こさせ、**地元への関心とともに心からの充実感を味わえる機会**をつくっておられます。

地域の課題に取り組む、地域活性化に貢献する、工務店の新しい姿

山倉社長は、これらの活動を「ボランティアでなく、社会活動」という信念のもと、実践し続けてこられました。結果として、住宅本来の事業でも、見学会イベント等による一般的な集客活動だけでなく、これらの取り組みによる**信頼の積み重ねが見込み客発見源となるなど、相乗効果**も出ています。

さびれていく古民家、空き家問題、災害への対応、若年層移住と高齢化問題等、地域が実際に困っていることに目を向け、自らがどのように関わることができるか具体的に検討してみることをお勧めします。地域活性化、貢献活動は、本紙面で繰り返しお伝えしているSDGsの具体的実践にも直結しますし、そこから新しいビジネスの種が発見できる可能性があります。

地域活性化は、自社の将来にも直結しています。**地域と社会に寄り添い役立つ存在になることが、これからの工務店のあるべき姿**といえるのではないのでしょうか。ぜひ、その点に目を向け、取り組みを進めていただきたいと思います。

(株)山倉建設様の地域貢献 / 地域づくり事業例と災害支援活動

- ① お助けネットワーク…高齢者の困りごと援助
- ② どろんこ亭…地域コミュニケーション活動の拠点
- ③ 金倉川清掃活動…帰りたくなるふるさとづくり
- ④ さぬき広島活性化活動
…過疎化問題と若い世代との交流
- ⑤ わくわく農園…農家の後継者不足、荒廃対策
- ⑥ 古民家再生&民泊、賃貸事業
…伝統文化・建築の継承と地域活性化
- ⑦ 古民家のアメリカ移築
…伝統建築・継承育成プロジェクト

に加え、災害支援活動…ボランティアでなく社会活動の一環として



EIDAI HISTORY 第6回 内装材(収納製品)の開発 中編2

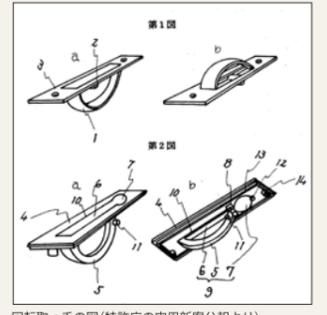
前回に引き続き、今回も当社の収納製品に焦点を当て、半世紀にわたる製品開発の歩みを振り返ります。

「床下収納ユニット」の誕生



初期のころの床下収納

1960年代後半から80年代初頭にかけて、一戸建ての建売住宅の台所には、床下収納がよく見られました。今日のように一般家庭向けの大型冷蔵庫が普及していなかったことから、初期の段階では、収納庫の周囲をコンクリートで囲み、冷蔵庫の代わりに使用していました。しかし、布基礎がほとんどであった当時、床下のシロアリ対策や配線などの点検口が必要であったため、すぐに取り外しが可能な樹脂製の本体(シェル)が用いられるようになっていきました。



回転取っ手の図(特許庁の実用新案公表より)

1975年、当社は「床下収納ユニット」の製品名で、発売を開始しました。当社の「床下収納ユニット」は、取り出し時にフタが垂直に立ち、外す必要がなかったことから便利であると好評でした。また、このころ既に、標準品(フタの寸法1160センチ角)を2つ並べた容量の大きな製品もありました。なお発売に先立って、1974年には、フタの開閉用金具としてなじみ深い「半円形の回転取っ手」で、実用新案権を出願しました(1979年登録)。

パテント競争に敗れた「床下収納ユニット」

が、これにも「床下収納ユニット」を採用していました。吊戸棚の容量が増し、キッチン本体のキャビネット収納力も向上していきましたが、床下収納の人氣は根強く、採用を検討していた大手のハウスメーカーに対し、当社は、積極的に営業攻勢をかけていきました。そのハウスメーカーは採用の大前提として「フタのしなりに伴う床鳴り対策」を求めていました。それに応えようと、回転取っ手に続くアイデアとして、当社はフタの底部にスチール製の補強材を入



永大ハウス「新若葉」にも採用

ることを思いつきます。しかし、そのアイデアはすでに同業他社のパテントとして押さえられていました。代案も間に合わず、最終的にそのハウスメーカーからの発注は全て、パテントを有する同業他社が受注するというやしい結果が待っていました。こうして床下収納の拡販を目指したものの、他社の後塵を拝する結果となったことから、その後当社は、知的財産の管理・保全に力を入れるようになりました。さて、そのような歴史を持つ「床下収納ユニット」は、断熱材付きの中フタで、床下からの冷気を抑制したものの、あるいは床下内でスライドし、利便性を高めたものなど、今もなお当社の製品カタログに掲載し、ロングセラーとして販売を続けています。



床下収納ユニット スライドタイプ

※お知らせ：内装材(収納製品)の特集は、ご好評につき延長することにいたしました。

- 1946 (S21)
- 1950 (S25)
- 1955 (S30)
- 1960 (S35)
- 1965 (S40)
- 1970 (S45)
- 1975 (S50)
- 1980 (S55)
- 1985 (S60)
- 1990 (H2)
- 1995 (H7)
- 2000 (H12)
- 2005 (H17)
- 2010 (H22)
- 2015 (H27)
- 2020 (R2)